

## 令和元年度 指定管理施設運営状況中間評価表

### 1. 施設の概要

施設の名称	むつ市海と森ふれあい体験館		
指定管理者	団体名	特定非営利活動法人シェルフォレスト川内	
	代表者	五十嵐 健志	
	所在地	青森県むつ市川内町川内477	
指定期間	平成 30年 4月 1日 ~ 令和3年 3月 31日 ( 3年間)		
指定管理業務の概要	体験館を地域住民の生涯学習や子どもたちの総合学習の拠点とし、歴史文化も含めた情報の発信を行い地域の活性化に寄与する。そのための主たる事業として、シェルミュージアムや陸奥湾の生物の展示、自然学校や指導員育成講座の開催、ジオパークやイルカなどに関する研究教育活動。		

### 2. 収支の状況

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	15,823	7,816	△8,007
うち利用料金額	150	47	△103
うち指定管理料	15,673	7,769	△7,904
支出合計 (B)	15,823	8,112	△7,711
うち人件費	12,845	6,042	△6,803
収支差 (A-B)	0	△296	△296
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由			

### 3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
		館内および館外活動	5200	7700
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施(有)  イルカ事業(学校関係)だけでなく、夏の自然学校でも良い評価をいただいている(アンケート回答2例、市教生涯学習課提出済)				

### 4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
イルカガイドブックの配布	不特定多数	—	—
イルカウォッチングガイドの指導	遊覧船利用者数	—	—
など			

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A (優良) : 計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B (適正) : 適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C (要改善) : 指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
① 開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
② 施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	B
③ 利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④ 利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	A	A
(2) 利用促進に関する取組み状況		
① 施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
② 潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	A
③ 自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	B
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③ 職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
① 施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
② 設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③ 労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④ 利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
① 利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
② 日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③ 防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④ 利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	A

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

上半期は、むつ市のむつわんイルカふれあい協議会および体験館の指定事業であるカマイルカの調査および川内町のビーチでの飼育実験に注力した。ビーチでのカマイルカ学術研究および教育活動は他所でほとんど前例のないこともあり、多くの労力を要したが無事終了することができた。野生のイルカの観察並びにビーチでの活動は、特に学校教育に対しては今後の発展的展開も含め大変貢献できたと考える。また、その成果は新聞やテレビ(複数テレビ局のニュースや特集、NHK自然番組など)で広く告知され、むつ市のPRにも寄与したと考える。また、イルカ以外も、学校教育の一環で始まった地先の巻貝の調査は国の地球環境に関する研究プロジェクトとなり、国立環境研究所や複数の大学と共同研究も行っており、その成果は体験館の活動(学習プログラムや学校教育など)に還元されている。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

上半期は、特にカマイルカの調査、飼育実験を軸に活動運営がなされていた。教育施設として、市内小学生とその関係者が多く訪れ他所ではできない体験が可能となった。この活動には多数のメディアも注目し大変良い市のPRとなった。

夏季の事業では、市外県外の利用者から大変良い感想を頂いている。天候に左右される事業ではあったが、それをカバーできる内容の座学もあり質の高さも魅力の一つとなっていた。

下半期は、館内の運営にも力を入れ利用者の皆さまが訪れやすく更に学びやすい工夫をして頂けることを期待している。